



▲「第3回ぶちうまいお米コンテストin東広島」の入賞者ら

第3回コンテストを開催

東広島市や(株)サタケ、JAひろしまなどは11月21日、道の駅「湖畔の里福富」で「第3回ぶちうまいお米コンテストin東広島」の決勝審査会を開きました。52点の応募から、豊栄町の村若哲磨さんのコシヒカリが最優秀賞に輝きました。

コンテストは、市内の稲作農家や集落営農法人の生産意欲の高揚

受賞者の皆さま おめでとうございます

最優秀賞

村若 哲磨さん(豊栄町) コシヒカリ

優秀賞

松田 永司さん(豊栄町) コシヒカリ

審査員特別賞

(農)かみみなが(西条町) あきさかり

土井 浩文さん(豊栄町) コシヒカリ

溝西 優さん(西条町) 恋の予感

と米の食味向上によるブランド化、消費者へのPRを目指し2021年から開いています。予備審査は機器で成分や品質を分析。決勝審査では、高垣廣徳市長やJAの三戸正宏組合長ら7人が上位5点を実食し、最優秀賞、優秀賞、審査員特別賞を決めました。2年ぶりに最優秀賞を受賞した村若さんは「米作りには厳しい気象条件だったが、努力が報われた。データを積み重ねて、良食味で安全・安心な米を作りたい」と喜びました。

入賞した米は23日に道の駅「西条のん太の酒蔵」で開かれた「どこ井?ひがしひろしま井ぶりフェス2023」で使われた他、産直市「とれたて元気市」などの農家店「など3店舗で販売しました。



▲消費者に野菜をPRする神村振興会のメンバー

「吉原ごぼう」産地復活へ 神村振興会野菜部会

豊栄町の吉原地区特産「吉原ごぼう」の産地復活を目指し、地元農家が奮闘しています。今年は農家10戸が栽培し、神村振興会野菜部会の3戸がJA産直市などに出荷。11月11日には「とれたて元気市」などの農家店でイベントを開催。地域とゴボウの知名度向上にも力を入れています。

「吉原ごぼう」は、肉質が柔らかく、香りが高く、えぐみが少ないのが特徴です。「吉原石」と呼ばれる花こう岩が風化した土壌で作られ、栽培できる範囲は同地区でも限られています。

明治から栽培が始まったとされ、50年ほど前には10戸ほどが生産していましたが、高齢化で生産が減少。1戸が出荷を続けてきま



▲「吉原ごぼう」を収穫する田中さん(左)と川崎さん

した。地域の特産を絶やさないよう、神村振興会が2020年から会員に「吉原ごぼう」の栽培を呼び掛け、市が保有するふれあい神村センターをJA産直市向けの集荷場にして出荷体制も整えました。同町の田中雅芳さんと娘の川崎理恵さんは休耕地を借り、2年前に「吉原ごぼう」の栽培を始めました。今年は4aで栽培。来年2月までJA産直市「とれたて元気市」などの農家店などに出荷する予定です。川崎さんは規格外をごぼう茶に加工していますが、今作は予約分だけで販売が終了するほどの人気です。川崎さんは「吉原でしか作れないゴボウを多くの人に知ってもらい、地域活性化にもつながりたい」と話します。



水 稲

丈夫な稲を育てるには

◆地力の向上

年が明け、新たな1年がスタートしました。米作りにおいては、作業が比較的少ない時期ですが、この間に昨年までの米作りの反省や知識を深め、春に向けた準備を進めましょう。

昔から「稲は土で作る」といわれるように、地力を向上させることは米作りの中で最も重要です。水稻の収量は、地力に依存する割合が60%前後と高いものとなっています。

圃場によって土壌条件は異なり、毎年の気象状況も違うため、これらに合わせた土づくりを考えなければなりません。

野 菜

「新年に寄せて」 「異常気象下における 野菜生産技術」



▲猛暑の影響を受けた白ネギ圃場



▲猛暑の影響を受けたナス圃場

◆令和5年産における野菜栽培

異常気象が当たり前となつていく昨今、昨年の夏は気象庁の統計開始後史上最も暑い夏となり、

◆耕うん

さらに近年の気温上昇は米作りに強い影響を及ぼしています。出穂期から登熟期まで高温が続くことで高温障害となり、品質や収量の低下を招く原因となっています。こうした状況を改善するには、圃場をすき込んで地力を向上させることが必要です。年内に何度かすき込むのが理想ですが、まだという方は早めに行なってください。

冬は朝露や雪解け水などの水分を含んだ圃場が多く、濡れた状態でのすき込みは土が練られて固くなり、圃場の水はけが悪くしてしまいます。すき込む際は圃場の乾いた晴れの日に行ないましょう。

◆必要な栄養素

稲が健全に生育するには地力の他にもさまざまな栄養素をバランスよく吸収させる必要があります。窒素、リン酸、カリの3要素はもちろん、比較的多く吸収されるカルシウム、マグネシウム、ケイ酸、イオウ。吸収量は少ないものの土壌中に含まれる微量元素といわれる鉄、マンガンなどが必要です。中でも昨今の米作りでも重

要視されているケイ酸について詳しく紹介します。

◆ケイ酸

ケイ酸は稲が最も多く吸収する成分です。稲に十分なケイ酸が供給されると光合成が促進され強い稲が育ちます。強くなった稲は葉が直立して太陽の光を取り込む面積が増え、光合成の効率が高まります。稲は光合成の促進により根、茎、葉を丈夫にしています。

丈夫になった根は酸素の供給を円滑にし、土壌から多くの養分や水分を吸収します。そして茎と葉が丈夫になると倒伏被害のリスクが軽減され、収量の増加につながります。ケイ酸は稲自体を強くする効果があるので、いもち病などの病気や害虫などに対する耐性も強化されます。

反対にケイ酸が不足した稲は根の水分吸収力が低下し、稲は乾燥を防ぐために蒸散を抑制する動きを行ないます。水の蒸散量が増えると稲は気孔を閉じてしまうため光合成を行なう力が低下して高温障害による登熟不良を招きます。品質の低下へとつながってしま

◆異常気象に対応した栽培技術

①定期定量灌水技術のススメ

我々人間も、暑い夏には水分をこまめに摂取するのと同様に、特に多量の水を必要とする夏秋品目などはさらに定期的な灌水が必要となります。

水田地帯の多い広島市や三原市大和町では、従前より水田の給水機能を活用した「畝間灌水（うねまかんすい）」により給水していましたが、この手法では一時的に多量の灌水が可能な一方、急激な水分変化による作物へのストレス・ひいては病害発生を助長する事にも繋がります。

JAでは行政などとも連携し、電源が無い露地圃場でも設置が可能な「日射比例型拍動式灌水装置ソーラーパルサー」による定期定量灌水が可能とする装置の購入費に対する助成・補助事業も導入し、異常気象に対応する技術導入支援を展開しています。

特に、JAひろしまで振興している夏秋なすは水を多量に必要とするため、灌水と同時に肥料も施す事で栽培労力の軽減が図れます。

この機会に是非、導入を検討さ

ますのでケイ酸を不足させない管理を心掛けましょう。

近年では、土壌中のケイ酸成分が不足している圃場が多くみられます。有機質資材からも補うことができますがケイ酸資材の施用を是非、ご検討ください。

ケイ酸加里プレミアム34



倒伏軽減、登熟向上に効果があります。施用時期に関しては、「水稻栽培ごよみ」をご参考ください。

ミネラルG



根張りを良くするためのケイ酸・鉄分をはじめとした各種の微量元素を含む総合土づくり肥料です。

れてはいかがでしょうか。

②植物活性資材活用 of ススメ

令和5年産の夏秋品目は、植え付け後の低温と夏場の猛暑による影響を強く受けました。しかしながら近年、農作物の安定生産に効果が高いとされる「バイオスティミュラント（BS）」資材を定期的に施用した栽培圃場では、平年と遜色の無い生育・収穫量を確保した例もあります。

詳しい使用方法などについては最寄りのアグリセンター営農指導員にお問い合わせください。

「バイオスティミュラント」資材



▲ボンバルディア



▲ライゾー



▲グリベテン

購買予約回覧を廃止し 広報誌への折込チラシに変更しました



購買予約回覧を個人情報の観点から令和5年12月の回覧をもって廃止いたしました。
皆さまには永らくご利用、ご協力を賜り誠にありがとうございました。

令和6年1月からは

本誌に「カタログショッピング」のチラシを
折り込みます。



ご注文は、最寄りのアグリセンターに電話をさせていただくか、注文書をファックスもしくはご持参ください。



▲広報誌にはせ込む「カタログショッピング」チラシ（イメージ）

東広島市
園芸センターより

園芸作物ほ場排水等改善支援事業の紹介

概要

園芸作物のほ場として適した水はけの良い土壌を形成するための資材費の購入及び、その施工に必要な機器の賃借料を補助します。（人件費、施工費は対象外）

事業名 園芸作物ほ場排水等改善支援事業

対象者 認定農業者、認定新規就農者

補助率・限度額 補助対象経費の1/2、上限200万円

補助内容

- ・改善される作付面積が5 a以上。
- ・U字溝や砂利、客土などの資材購入費用。
- ・排水は、明渠、暗渠といった形で敷設するもの。
- ・客土は、1 aあたり10m³以上を購入するもの。
- ・機械・器具賃借料は、専用機で、施工以外の目的で使用しないもの。

問い合わせ

東広島市園芸センター TEL 082-433-4411

